

# ロサンゼルス・インターナショナル・スクール

アメリカでの日英バイリンガル・バイカルチャー教育 第2回

## 「LA インター」の特徴 (2)：どんな生徒が学ぶ学校 ディレクター 鈴木 寛人

はじめまして、ロサンゼルス・インターナショナル・スクールです。略して“LA インター”と呼ばれています。これから、シリーズで本校をご紹介させていただきますので、よろしくお願いたします。

### 多様な在校生達

LA インターでは、様々なバックグラウンドの生徒達が、多様性に富んだ豊かな教育環境で学んでいます。今回は、どんな生徒達が在籍しているのか、紹介しましょう。

### 1、駐在員の子ども（自宅から通学）

カリフォルニア州南部にあるロサンゼルス地区は、全米、いや世界でも最も活発な経済活動の地域として有名です。そのため、多くの日本の企業が、現地法人や現地事務所などを設立しています。例えば、学校から車で10分以内の距離に、トヨタ、ホンダの全米セールスの本社があります。

これら現地の会社では、日本の本社から派遣された社員が様々なレベルで仕事をしています。これらの社員の方の多くは、駐在期間は平均で4年くらいと長いので家族揃って渡米され、日本人として生活のしやすい「サウスベイ」と呼ばれる地区に、住んでいます。LA インターは、その地区の中心に位置しています。このような駐在員家庭の子ども達が、家庭から通学しながら本校で学んでおり、生徒集団の中心になっています。

駐在員の子どもの特徴は、数年で日本へ帰国しなければならないことです。そのため、英語だけではなく、日本語での学習を続けるなければならないという二重の負担を負っています。

LA インターは、日本語だけの「日本人学校」、英語だけの「現地校」とは異なり、2つの言語でのバランスの取れた教育を提供する「バイリンガル校」として設立されました。

駐在員子弟の教育を充実するために、子どもだけではなく保護者に対するサポートを提供したり、逆に、保護者の大きなご協力を受けて、学校運営をしています。

### 2、駐在員の子ども（寮から通学）

LA インターに通学が出来ない地域に居住している駐在員の子どもや、既に日本へ帰国した駐在員の子どもも在籍しています。

自宅から学校まで車で2時間以上かかり毎日の通学が大変という生徒もいれば、両親が他の州に住んでいる生徒もいます。これらの生徒は寮から通学しています。ホーム・ステイの家庭から通学する生徒もいます。

このように、離れて生活してでも子どもをLA インターで学ばせる保護者は、次のような理由をあげます。

- ① バイリンガル教育を受けさせたい。  
現地の学校での英語だけの教育では不十分で、帰国後のことも考え、日英のバランスの取れた教育を受けさせたい。
- ② 日本の大学に進学させたい。  
高校生を日本語と英語で教育してくれて、帰国子女大学入試の実績もあり、指導もしてくれる学校で学ばせて、日本の大学へ進学させたい。

特に、②を目的としては、アメリカの高校をあと1・2年で卒業する子どもを抱え、突然日本への帰国を命じられた駐在員が、「現地校を卒業させて、帰国子女入試を受験させたい」、「無理やり日本へ連れ帰って、チョイスの少ない高校編入や国内の大学入試を受けさせるのは大変」と考え、本校に入学させるケースが多くあります。

